

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム たんぽぽ

日付 平成19年3月31日
 特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
 評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講師

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「こんにちは！」ホームの入口周辺では子供達が遊びに夢中。ここがグループホームだという事を一瞬忘れてしまいそうになる。このホームは同じ敷地内に、グループホームと学童保育併設のユニークな形態を取っている。最初はスタッフが動き易い様に、スタッフの為に託児所を造るつもりだった。市に相談すると、地域には学童保育の受け皿が不足して困っているの、学童保育を考えて欲しいと言われた。そこで、皆の役に立てるのならこの形態にしたそう。ホームでは利用者が、学童の入所式で子供達に配るお菓子の袋詰め作業の真っ最中。入所式には利用者も出席する。小学校も学童保育とグループホームのタイアップを理解し、インフルエンザが流行ると「気を付けて下さい」と声をかけてくれる。朝夕の送迎で、子供達と保護者が出入するざわめきも感じることが出来る。子供との交流は利用者にとっても嬉しい。「お婆ちゃんが外に出たよ」と知らせてくれたり、一緒に手をつないで利用者連れて帰ってくれた事もあるそう。元気に遊ぶ子供達がホームの窓からいつでも見える。子供達や保護者と利用者みんな参加の年1回のパーベキュー大会は恒例行事になっている。ホームの看板を立てなくても保護者が口コミで地域に伝えてくれる。こうして、地域に理解され見守られ、安心して暮らせる素晴らしいホームができた。きっかけは、困っている人の役に立てるならばの善意の気持ち!! それが多様な人の間を巡り、次々と良い循環を繰り返し、大きな輪が広がった。これからが、ますます楽しいなホームである。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者のこれまでの生活歴を、管理者も職員もよく理解している。新しく分かった事は、どんどん追加して書き足していけば、もっと良い。欲を言えば、成人前、その人がどんな育ち方をしたかの記録もあれば申し分ない。これまでの人生が分かれば、より良いケアに繋がると思う。記録に時間をかけるより、利用者に接していきたいとの思いから効率の良い記録様式を工夫しているのはとても良い。願わくば、その人の言動の記述をもっと残してあげて欲しい。どんな事を言って、どうしていたかを一番良く知っているのは身近にいる職員や管理者だ。それは、利用者が家族にとって、かけがいのない生きた記録になるだろう。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「認知症になっても、その人らしく安心して楽しく暮らして欲しい。家庭的な環境の中で、出来るだけ家事を分担して手伝ってもらい、今ある残存能力を落とさないよう心掛けている。自分に出来る役割がある事が自信になり、生き甲斐と喜びにつながると思う」と管理者は言う。閉ざされたホームの中だけでなく、地域社会との交流を大切に、地域全体で利用者を包み込もうと考えている。地元の祭りに出掛け、顔見知り会い「前より元気になったね」と声をかけられた。近くに新居の棟上があると聞くと、皆で餅拾いに行ったりもする。利用者にとって、今まで住み慣れた地域で暮らし続けるのが、何よりの安らぎと癒しである事をよく分かっている。このホームになら、大切な家族を任せられそう。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	全体にゆったりとした造りがホームの自慢だ。広さで分散されて、人の動きが気にならない。リビングルームには、利用者が気兼ねなく過ごせるよう、食卓を4つに分けて置いている。車椅子の男性のお気に入りのソファもある。一段高い和室は堀コタツがあり寛げる。椅子くらいのほど良い高さなので、腰掛けたり、皆で洗濯物を畳んだりもできる。2人で入れるほど大きな浴室は2ヶ所から出入り可。脱衣所から入り、もう一方から出て服を着る。玄関からは長くて広い廊下がある。雨続きで外出できない時は往復して歩行訓練しているそう。家族が泊まるゲストルームもある。窓からは行き交う車や田畑が見え開放感があり、季節を感じる。学童保育の子供達の声や姿も嬉しい。あちこちに安心と癒しへの気配がある。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「最近仕事も暇になってきたから、大将に話してちょっと家に帰ろうかと思うんよ」食器を拭きながらAさんが言う。ずっと建設業を営んできたAさんは管理者を大将と呼ぶ。「今日も明日も仕事が忙しいらしい」張り切る男性利用者もいた。利用者達は皆、仕事をしにホームに来たと思っている。外出すると「今日は仕事休み？」と聞くそう。独り部屋に閉じこもり殆んど寝たきりに近かった人が、普通に歩けるようになった。自分の仕事を見つけて、仕事仲間もできて、自分の事が自分で出来るようになり、介護度も良くなった。誰かが入院したら見舞いに行くのは当たり前、仲間同士励まし助け合う。帰ってきたAさんは「帰られたら仕事できなくて困るんよ」と管理者に言ってもらえて「わかった」自分が必要とされ、役にたっていると思えたら、そこに居場所ができる。上手に作業を取り入れ生活の中でのリハビリができています。やりがいと仲間を支えられた穏やかな日常があった。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	「閉じこもらず、なるべく外に出る事」がこのホームのモットーだ。ゆったりした敷地内の散歩、買物、近くの美術館や干拓でのコスモスや菜の花を見にドライブ等、恵まれた環境を生かしての毎月の様々な行事、それ以外に年に1回は旅行にも行く。今年は宮島を計画中だそう。ホームの運営にもこの考え方は生かされ、近隣のグループホームとも交流し、積極的にネットワーク作りをしている。双方の職員・利用者・家族参加の合同花見会は恒例行事となっている。家族参加の忘年会も毎年実施、その年の思い出を写真やビデオで振り返り、年末年始の外泊をお願いしたりする。互いに情報交換して、理解を深めているそう。利用者がホームの中だけでなく、社会全体で無理なく受け入れられ、当たり前暮らしを暮らせる開かれた生活を見て、グループホームのあるべき姿を実感した。		